

一般財団法人オアシス ウクライナ避難民支援活動 報告書(詳細)

2022年10月～2023年3月

1. 避難民の受け入れ支援

- (1) 時期:2022年10月～2023年3月
- (2) 場所:神奈川県横浜市、大阪府、兵庫県、福岡県
- (3) 対象人数:ウクライナ避難民約20名
(新規受入6名、手続きするも来日できなかった4名、
現地避難民からの相談約10名)
- (4) 内容: a. 来日前の調整、渡航支援
b. 受け入れ自治体との連絡、調整

・11月: 家族3人(祖母・母・娘)受入れ:

ポーランドでの滞在先の手配、航空券手配、ビザ申請支援、空港迎え、日本での最初の滞在先(1週間程度)の提供、当面の生活費(10万円)の提供、身元引受団体(福岡)との連絡・調整、福岡への交通手段手配・送り出し、等。

・12月:避難民2人の、それぞれの妹と弟を新規受け入れ:

ビザ申請手配。未成年のためウクライナに迎えに行き、航空券等移動手段を確保、日本に引率した。入管・区役所・横浜市手続、助成金申請(生活費確保)、自治会・近所への紹介、住居整備(賃貸契約手続き、家財道具募集・購入、水光熱費手続き、wifi契約)、引っ越しの実施、銀行口座開設

・3月:出入国在留管理庁のマッチングにより1名 受け入れ:

1月に住居を内見、受け入れが決定した。3月に横浜に転居予定。住居整備(賃貸契約手続き、家財道具募集・購入、水光熱費手続き、wifi契約、等)、引っ越しの実施。区役所・横浜市手続、自治会・近所への紹介、等。

他:

・10月以前に当法人で来日の段取りを支援、来日直後の住居を提供し、大阪府や兵庫県の身元引受人(協力団体)に送った避難民たち(3人)を、適時フォローした。

・夫婦(妊婦)1家族、母息子(重病有)1家族:ご本人たちと連絡を緊密にとりながら、ポーランドの日本大使館にビザ申請手続きを行ったがビザが下りず、日本での受け入れを断念した。

・現地の避難民から、日本避難の相談が随時入るため、対応して受け入れの可能性を探った。(10名以上)

2. 避難民の生活支援

(1) 時期:2022年10月~2023年3月

(2) 場所:神奈川県横浜市

(3) 対象人数:ウクライナ避難民11名

(4) 内容:

a. 日常生活に関する全般的な支援

- ・買い物同行、病院さがし、通院同行、急病時の食事差し入れ、住居・近隣のトラブル対応、水光熱費の払い漏れチェック、マイナンバーカード取得、マイナポイント取得支援、銀行口座開設等。

b. 就労、就学支援

- ・避難民の技能(デザイン)を活かしトートバッグ・Tシャツ・マスクホルダー等を製作、各所やメルカリで販売して避難民の生活費に。また避難民がデザイン業務を請け負う支援を行った。

(生活費確保・自立支援)

- ・就労支援:アルバイトの面接時および研修時に同行して業務の理解を助け、日本で働く助言をした。

- ・就学支援:協力団体のフリースクール(のあインターナショナルスクール)と避難民学生受け入れの可能性を協議、通える環境を整備した。オリエンテーションに同行したり、引きこもりがちの生徒避難民に起床を促し通学できるようサポートした。学費の寄付を各所で呼びかけた。

c. 日本語学習支援

地域のボランティアによる日本語教室が、避難民個人の状況に合わせて継続できるようフォローした。

d. その他

イベント関係(目的:交流・情報提供・支援の呼びかけ・募金活動・避難民制作の物品販売)

- ・9/17(土) 本郷台駅前「ウクライナともだちフェスティバル」を開催したが、その整理業務を行った。収益を避難民の移動手段(電動アシスト自転車4台)購入に充て、購入を段取った。

- ・12/10(土)11(日)本郷台駅前クリスマスマーケットでウクライナブースを出すための業務全般を行った。避難民デザインのエコバッグ制作支援。当日の販売支援。(売上金は全額避難民へ)

- ・2/18(土)聖光学院中学校高等学校のウクライナ支援コンサートへの協力依頼への対応・出演等々

以上